

〈経塚研究会〉

アジア社会における日本経塚信仰の成立と展開をめぐって

共催者代表

岩手大学平泉文化研究センター長 藪 敏裕

主 旨

11世紀初期に生起し、12世紀の列島中に広範に波及した平安期を代表する一大文化現象、経塚信仰の成立をめぐっては長らく日本創始説が定説とされてきた。ところが最近、これを中国における舍利塔遺構の出土品と関連づけた大陸起源の問題が改めて提起され、日本経塚の成立問題をめぐっては新たな研究潮流がきざしつつある。たしかに12世紀初期から中期の九州北部地域に特に集中する経筒（相輪を伴った輪積みタイプのもの）には宋人名が墨書あるいは針書きされ、それら経筒のいく点かを鉛同位体比分析したところすべて華南産（中国製）であることが判明し、列島出土の経筒の一部が大陸由来であることはもはや動くまい。そこでこの墨書銘の問題について中国考古学および宋国貿易制度の側面から検討を加え、あわせてアジア社会からみた11世紀代の初期経塚造営の様態、さらに弥勒信仰や末法思想によってのみ語られてきた既往の経塚信仰観についても再検討を試みたい。

こうしたいくつかの課題のもと、岩手大学平泉文化研究センターにおいては岩手県下北上川流域にみる経塚遺構の頻出と展開（平泉の金鶏山経塚に代表される）にかんがみ、日本経塚信仰の起源を探索すべく本年7月に中国調査を実施し、10、11世紀代における大陸の事例および高麗国への影響と推考されるいくつかの新知見を得ることができた。よってここに四団体共催のもと、その中間報告と問題提起の場を設けて関連諸分野の議論をも喚起し、広くアジア社会のなかでの日本経塚の起源と源流およびその信仰をめぐると新視点を提示することとしたい。

記

日 時 2014年12月7日（日）午後1時より五時半

会 場 東北大学文学部研究棟1階135講義室（東北大学川内南キャンパス内）

報告者 菅野成寛（岩手大学平泉文化研究センター、日本宗教史）

「アジア社会における舍利（釈迦）信仰の展開と日本経塚の成立」

劉 海宇（同センター、中国考古学）

「経筒・陶磁器等の墨書銘から見た宋代の貿易制度」

コメント 上島享（京都大学、日本中世史・宗教史）、八重樫忠郎（岩手大学平泉文化研究センター、日本考古学）、長岡龍作（東北大学、日本美術史）

進行 菅野文夫（岩手大学、日本中世史）、八重樫忠郎

共 催 岩手大学平泉文化研究センター、科学研究費補助金基盤研究（B）「平泉研究の資料学的再構築」、東北中世史研究会、東北学院大学中世史研究会

※ 会場へは公共交通機関をご利用ください（仙台駅より市営バス9番乗り場、東北大川内キャンパス・萩ホール前下車。16番乗り場、川内郵便局前下車。180円・約15分）。